

教育長賞

題名 「十年後の津山」

学校名 津山市立北小学校

学年 第6学年

氏名 畑田香帆 (はただかほ)

十年後の津山

「津山は本当に不便なところじゃなあ。昔は、鳥取でも姫路でも乗り替えなしの汽車で行けたし、田舎へのバスの便は沢山あったし、今は、^ヤばあち^ヤんが生まれ、^ヤた家へ行くにもバスは二便しかないんじ^ヤもん。祖母はよく言う。言われてみれば津山は、岡山も鳥取も大阪も遠く、眠。たような山の中の町だ。良い所を探せば、あるにはある。自然災害が少ないこと。病院が多いこと。無いと言われる産婦人科も沢山ある。学校も小学校から大学まで一応ある。でも、人口は減りつつあり、観光資源も少なく、商店街はドーナツ化状態。このままでは、消滅都市になるのではないかと心配だ。そこで、私は商店街の中心にある「アールネ」を上手に活用すればいいと思う。たとえば、この中に保育園と老人施設を合併して作れば核家族の多い今、幼児は老人を大切にすること、古くからの知恵を貰うことができると思う。老人は幼児とのふれあいで生き

きると思う。老人は幼児とのふれあいで生き

る力を貰い、お互いの助け合いを覚えていく
と思う。幼児を迎えに来る親達もその周辺で
買い物をするれば、商店街が潤うと思う。選挙
の投票所もアルネの「地域交流センター」に
すれば投票の帰りに買い物も出来て、投票率
も増えると思う。

春は桜、秋は紅葉が美しいお城山に天守閣
を作り、衆楽園と共にうまく宣伝すればいい
と思う。鶴山公園の石垣は日本でもトップク
ラスなので、観光客を呼べると思う。岡山と

鳥取に向けては、自動車道を早く作ればいい
と思う。距離をちがめることはとても大切な
ことだと思う。

人口を増やすためには若い人が住みよい町
を考えなくてはいけない。それには、せいか
くめぐまれている学校、病院を上手に活用し
て、私達が大人になるころには、喜んで津山
に住めれば良いと思う。